

実施年度	: 2020 (2021 入試) 年度
試験日	: 2021 年 2 月 22 日
入試種別	: 外国人留学生 大学院 (博士後期課程) 入学試験問題
学部・研究科	: 文学研究科 仏教学専攻
科目名	: 文献読解 (サンスクリット語)

ここで[或る人々が]言う、—「アートマンは実在する、それと結合した苦が実在するからである。実に、ここでは「五取蘊は苦である」と[経に]説かれているので、それ(苦)は存在する。そしてその苦は何らかのものにおいて成立しているのであって、依り所を欠いたものとしてではない。したがって、苦の依り所は存在する。そして、それはアートマンである」と。

答えて言う。—もし苦が存在するならば、アートマンは存在するであろう。[しかし、その場合、]実に、それは自身により作られたもの(自作)として存在するか、あるいは他により作られたもの(他作)か、あるいは[自らと他の]両者により作られたもの(共作)か、あるいは原因を離れた(無因)ものとしてか、である。しかし、あらゆるあり方において主張されるとき、それは作られたものとして存在しない。このことを論理的に確立しつつ、[龍樹は、]論じる。すなわち、

苦は自身により作られたものである、他により作られたものである、両者により作られたものである、[あるいは]原因のないものであると、或る者は[それぞれに]主張するが、それが作られたものであるというのは合理ではない。||1||

その[第 1 偈]において、或る論者たちは「苦は自身により作られたものである」と認める。さらに、他者は「他により作られたものである」、また他者は「両者により作られたものである」、誰か或る[論者]たちは「苦は原因なくして生じたものである」と認める。しかし、その苦が主張されるとき、あらゆるあり方において、作られたもの、すなわち結果として合理ではない。そのゆえに、以上[の主張]は、ただ単に主張しているにすぎない。